

## 「平成20年度 児童・生徒の学力向上を図るための調査 報告書」(平成21年6月 東京都教育委員会)

### からみた課題及び指導方法改善のポイント(江戸川区版)

#### 【本資料作成の趣旨】

- 全校で実施した「確かな学力」の伸長を図るための調査(問題解決能力等に関する調査)について、実現状況を把握し、それを指導方法の改善に結び付けることで、江戸川区の児童・生徒の「確かな学力」の一層の定着を図るための一資料とした。
- 評価の観点ごとの正答率からみた課題を明確にした。
- 課題に対して、「指導方法改善のポイント」を具体的な指導方法にふれながら記載した。

#### 【各学校における本資料の活用について】

- 各学校は、本資料に示す江戸川区の調査結果の分析と考察を踏まえた上で、自校の調査結果の分析と考察を行い、確かな学力の向上に向けた取組について整理し、「確かな学力向上推進プラン」の見直しを行う。
- 各学校は、学校ごとの「指導方法改善のポイント」を明確にした上で、一人一人の児童・生徒に応じた指導方法を改善する。

平成21年7月

江戸川区教育委員会指導室

観点ごとの正答率				観点ごとの結果と分析
評価の観点	東京都	江戸川区	本校	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体の平均正答率は56.7%であり、東京都及び江戸川区を下回っている。出題数8問中、正答率が70%を下回る問題は7問ある。</li> <li>「問題を発見する力」は1問の出題で、平均正答率は79.7%である。</li> <li>「見通す力」は1問の出題で、平均正答率は63.8%である。</li> <li>「適用・応用する力」は4問の出題で、平均正答率は49.3%であり、正答率が60%を下回る問題が3問ある。</li> <li>「意思決定する力」は1問の出題で、平均正答率は47.1%である。</li> <li>「表現する力」は1問の出題で、平均正答率は65.9%である。</li> </ul>
問題を発見する力	81.5%	81.3%	79.7%	
見通す力	59.6%	58.5%	63.8%	
適用・応用する力	54.5%	52.2%	49.3%	
意思決定する力	50.6%	47.5%	47.1%	
表現する力	72.1%	70.7%	65.9%	
総合	60.2%	58.3%	56.7%	

問いごとの結果分析と指導方法改善のポイント

	結果の分析	指導方法改善のポイント								
1 「問題を発見する力」	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都</td> <td>81.5%</td> </tr> <tr> <td>江戸川区</td> <td>81.3%</td> </tr> <tr> <td>本校</td> <td>79.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>本問の正答は選択肢3で、正答率は79.7%である。東京都、江戸川区の平均をやや下回ったが、ほぼ同じである。誤答の反応率が高いのは選択肢4で、15.9%である。この要因としては、2枚の写真を比較し、イの「30年くらい前にあったガードレールが現在別のさくに変まっている」ことは読み取れたものの、エの状況について読み取れなかったことによるものと考えられる。</p>		1	東京都	81.5%	江戸川区	81.3%	本校	79.7%	<p>【各教科や総合的な学習の時間の学習において】</p> <p>1 児童が複数の情報を観念に沿って比較・関連付けながら読み取る活動の充実を図る                  事象を読み取る「観念」を明確にして、その「観念」に沿って複数の事象を比較・関連付けながら共通点や相違点を読み取るように指導する。また、読み取りの過程において、事象に潜む矛盾する点や不明瞭な点などについての児童の気づきを教師が意図的に引き出し、問題意識を喚起するように指導する。</p> <p>2 設定する問題の意図について吟味・検討する活動の充実を図る                  児童一人一人が問題を設定した後、すぐに追究する活動に入るのではなく、グループや学級全体で児童一人一人が考えた問題について情報交換を行い、問題の内容やその価値について検討した後、再度問題を練り直して、追究する問題を決定するような活動を設定していく。</p>
	1									
東京都	81.5%									
江戸川区	81.3%									
本校	79.7%									
2 「見通す力」	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京都</td> <td>59.6%</td> </tr> <tr> <td>江戸川区</td> <td>58.5%</td> </tr> <tr> <td>本校</td> <td>63.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>本問の正答は選択肢2で、正答率は63.8%である。東京都、江戸川区の平均をやや上回った。誤答の中で最も反応率が高いのは選択肢3の17.4%である。この要因としては、割引制度の内容を理解してバスの料金がいくらになるのか見通しをもつことができず、「バスに4回も乗るから一日乗車券を買った方が安くなるだろう。」と考えてしまったことによるものと考えられる。</p>		2	東京都	59.6%	江戸川区	58.5%	本校	63.8%	<p>【各教科や総合的な学習の時間の学習において】</p> <p>1 結果を予想する習慣を身に付けるための学習の改善・充実を図る                  例えば、第3学年理科の「植物の成長と体のつくり」の学習では、ホウセンカの種まきをする際、芽が出る様子を予想して絵に表す活動を設定する。実際に絵に表してみると、児童は、植物の芽が出た様子について、よく分かっていないことに気付く。その結果として、「芽が出た様子を確かめてみよう。」といった観察の視点が明確になり観察への意欲が高まっていくものと考えられる。</p> <p>2 結果の予想についての情報交換を行う学習の改善・充実を図る                  情報交換を行うことによって、児童は、自分の予想の立て方やその妥当性について振り返ることができるとともに、友達の予想を聞いて、友達の良いところを学ぶこともできる。この経験を積み重ねていくことが大切である。</p>
	2									
東京都	59.6%									
江戸川区	58.5%									
本校	63.8%									

	結果の分析		指導方法改善のポイント							
3 〔適用・応用する力〕	<table border="1"> <tr><td></td><td>3</td></tr> <tr><td>東京都</td><td>58.0%</td></tr> <tr><td>江戸川区</td><td>54.7%</td></tr> <tr><td>本校</td><td>52.9%</td></tr> </table> <p>正答は、選択肢4で、本校は東京都、江戸川区の平均より下回って、52.9%であった。誤答の中で最も反応率が高いのは、選択肢1で、17.4%の反応率であった。この要因としては、3回の試したことと結果とを結び付けて考察する力に課題があり、懐中電灯がつかない原因を特定することができなかったことによるものと考えられる。</p>		3	東京都	58.0%	江戸川区	54.7%	本校	52.9%	<p>【理科の学習において】</p> <p>見通しをもって観察、実験などを行う活動をたくさん取り入れていきたい。見通しをもつことは、子どもが自己の責任において問題を解決していく活動や場を保証することになる。そのためには、子ども一人一人が発想した予想や仮説、構想を尊重し、それに基づいて観察、実験などの活動を進めることを推奨する必要がある。見通しをもつことによって、予想や仮説、構想と観察、実験の結果の一致、不一致が明確になる。両者が一致した場合、予想や仮説、構想を確認したことになる。一致しない場合、子どもは自分が立てた予想や仮説、構想、あるいは考案した観察、実験の方法などを振り返り、それらを見直し、再検討することになる。このような過程を通して、自分の考えを絶えず見直し、行動を改善する態度を身に付けることになる。</p>
	3									
東京都	58.0%									
江戸川区	54.7%									
本校	52.9%									
4 〔適用・応用する力〕	<table border="1"> <tr><td></td><td>4</td></tr> <tr><td>東京都</td><td>47.5%</td></tr> <tr><td>江戸川区</td><td>49.2%</td></tr> <tr><td>本校</td><td>46.4%</td></tr> </table> <p>正答は選択肢1で、46.4%の正答率である。誤答の中で最も反応率が高いのは、選択肢3で26.1%の反応率である。この要因としては、話し合いの冒頭でゆみこさんが述べている「調べて分かっていることは、言わないようにしましょう。」という、この話し合いのルールについて理解できずに選択してしまったことによるものと考えられる。</p>		4	東京都	47.5%	江戸川区	49.2%	本校	46.4%	<p>【国語科の学習において】</p> <p>目的や意図に応じ、考えた事や伝えたい事などを的確に話すことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする態度を育てることが大切である。</p> <p>子どもたちに話し合いを進行させる経験を十分に積ませるとともに、話し合いの際には、話題を明確に意識させるようにする。例えば、話し合いの前に話し合う目的を確認し、話し合うメンバー全員で共有するようにしたり、話し合いの内容にずれがないかどうかを確かめる場面を設けたりする。その際、進行の役割についても確認し、話し合いの進め方についても習熟を図るようにすることが大切である。</p>
	4									
東京都	47.5%									
江戸川区	49.2%									
本校	46.4%									
5 〔進め・応用する力〕	<table border="1"> <tr><td></td><td>5</td></tr> <tr><td>東京都</td><td>47.7%</td></tr> <tr><td>江戸川区</td><td>43.8%</td></tr> <tr><td>本校</td><td>36.2%</td></tr> </table> <p>正答は、選択肢2「Aコースで、さくら茶屋の西を通る」で、本校は、東京都、江戸川区の平均より大きく下回って、36.2%であった。選択肢3の「Bコースで、けやき茶屋の南を通る」で、34.1%の反応率があったことは、この原因として南北の方位や等高線の見方についての理解が不十分なことによるものと考えられる。</p>		5	東京都	47.7%	江戸川区	43.8%	本校	36.2%	<p>【社会科の学習において】</p> <p>東西南北の方位について、社会科を中心にして理科や生活科などの学習で実際に体験してはいるが、知識として定着していない。社会的事象を観察したり、調査したりしたことを実際に白地図などに記入するような活動が必要である。</p> <p>また等高線の見方については、なかなか普段の授業において指導する機会があまりない。「等高線が混んでいる所は傾きが急であること」や「等高線の間が広い所は傾きが穏やかであること」のイメージをもてるように、作図させたり、立体模型を使った指導が不可欠である。縮尺を用いて、地図上のある地点からある地点までの長さを測って実際の距離を捉える技能は、社会科以外で学習する機会がない。そのため、社会科の基礎的技能的の充実を図り、日常生活において実際に活用・応用できるようにしておき、地図に親しみをもって接することが必要である。</p>
	5									
東京都	47.7%									
江戸川区	43.8%									
本校	36.2%									

	結果の分析	指導方法改善のポイント								
6 【意図決定する力】	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>東京都</td> <td>50.6%</td> </tr> <tr> <td>江戸川区</td> <td>47.5%</td> </tr> <tr> <td>本校</td> <td>47.1%</td> </tr> </table> <p>正答は、選択肢3で、東京都と区の平均とほぼ同じの47.5%の正答率であった。誤答の中で、最も反応率の高いのは選択肢1で、26.8%である。この要因としては、それぞれの条件相互の関係を十分に検討しなかったために、「せっかく物をほし終わってから5時間以上たったら、取りこんでたむ」という時間の感覚にかかわる条件を見落としていたことによるものである。</p>		6	東京都	50.6%	江戸川区	47.5%	本校	47.1%	<p>【各教科や総合的な学習の時間において】</p> <p>必要な情報を読み取って活用するような学習は、なかなか意識的に設定しないと育てていけないものである。生活情報などを正確に読み取り、様々な条件に適した選択と判断をしなければならない。社会科などの図やグラフから情報を正確に読み取る学習などや、生活予定表などを効率よく考え、組み立てる訓練も必要となるのだろう。</p> <p>児童自らが自主的に主体的に考える習慣を身につけ、その場しのぎではない計画に立脚した生活を送ろうとする意欲を育てるために、このような学習も大切になってくるのだろう。</p>
	6									
東京都	50.6%									
江戸川区	47.5%									
本校	47.1%									
7 【見通し力】	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>東京都</td> <td>54.9%</td> </tr> <tr> <td>江戸川区</td> <td>51.8%</td> </tr> <tr> <td>本校</td> <td>53.7%</td> </tr> </table> <p>正答は、選択肢5-7-4-2(5-7-2-4), 5-4-2-8(5-2-8-4), 5-7-2-8の3つのパターンである。本校の正答率は、東京都とほぼ同じの53.7%である。誤答は、大きく2つに分類でき、1つは、内容は適切だが文の順序が適切でなく、文章を構成する力に課題がある。もう1つは、問題の図を読み取り、示されている内容を忠実に示す力に課題がある。</p>		7	東京都	54.9%	江戸川区	51.8%	本校	53.7%	<p>【各教科や総合的な学習の時間の学習において】</p> <p>説明する場面を適切にとらえ、説明する事柄を整理して発表する訓練が必要である。例えば、グラフや図などの資料を用いて調べて分かったことを説明する場面において、どのような順序で説明すればよいか検討し、説明の準備の前に、説明するための順序について考えることで力がつくと考えられる。さらに、相手に物事を説明する際には、相手の立場や状況、目的に応じて、説明する内容を整理して表現することが大切である。例えば、社会科の学習・総合的な学習の時間で調べたことをまとめる場面において、「事実」と「感じたこと・考えたこと」を区別しているかどうかについて確かめる活動を通し、力を伸ばしていけるだろう。</p>
	7									
東京都	54.9%									
江戸川区	51.8%									
本校	53.7%									
8 【表題する力】	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>東京都</td> <td>77.2%</td> </tr> <tr> <td>江戸川区</td> <td>74.9%</td> </tr> <tr> <td>本校</td> <td>70.2%</td> </tr> </table> <p>正答は選択肢4で、本校の正答率は70.2%である。東京都・江戸川区どちらよりも少々下回っている。誤答の要因としては、3種類の単位が提示されているため、家で一日に使う水の量の合計を求める際に、どの単位を活用すればよいか判断できなかったことによるものと考えられる。</p>		8	東京都	77.2%	江戸川区	74.9%	本校	70.2%	<p>【各教科や総合的な学習の時間の学習において】</p> <p>この問題を解くためには、考えの筋道を明確にすることが大切である。この場合は、まず①表に示された水の量をリットルの単位にそろえて、計算する。次に、②リットルにそろえた数値を、さらに浴そう「200リットル」のいくつ分に置き換える。この二つの過程を自分で見つけ、たどることが必要である。このように、筋道を明らかにして段階的に考えられるような訓練を重ねていきたい。その訓練として、①目的を明確にし、それに沿った資料を収集する、②資料を整理し、表やグラフに表して資料の特徴や傾向を読み取る、③特徴や傾向に着目して事柄を判断したり、その理由をせつめいしたりする、といった一連の活動を意図的に取り入れることが大切である。</p>
	8									
東京都	77.2%									
江戸川区	74.9%									
本校	70.2%									